

第 2 回 北陸病虫害研究会

(昭和25年1月11日, 於 富山 農試)

講 演 要 旨

稲熱病防除の薬剤撒布に於ける 薬剤効果鑑定の一方法に就て

栗 林 数 衛

昭和16年に長野縣で稲熱病の發生豫察を空中胞子の採集法を用いて實施中, 8月中旬頃になり2, 3の觀測所で急に胞子の採集数が減少したから, 實地調査の結果, 葉稻熱病を豫防する爲に豫察田と其附近にボルドー液を撒布した事が判つた。この事があつて以來ボルドー液の撒布と胞子の形成及び飛散との關係に就き調査する爲, 昭和16, 17兩年に3回葉稻熱病に對しボルドー液の撒布試験を行い, 撒布後数日以内に塗沫法(スライド硝子にグリセリンゼリーを塗沫し其上に病斑を壓附けて胞子を附着せしむ)により胞子の形成狀況を調査した結果, 撒布区は無撒布区に比し胞子形成病斑歩合と1視野中の胞子数が著しく減少し, 薬剤撒布によつて病斑上に胞子の形成が顯著に抑制される事を確めた。

次に17年にボルドー液撒布区と無撒布区との空中胞子を採集し飛散狀況を調査した結果, 撒布区は撒布の翌日より胞子採集数が顯著に減少し, 其

の影響は撒布後20日以上に及んで居る事を確めた。この兩試験で葉稻熱病にボルドー液を撒布すれば, 病斑上に胞子の形成が抑制され空中飛散する胞子数が減少し, 曩に豫察田に起つた現象の理由が判つた。

昭和23年に葉稻熱病に對しノックメート, MB T等の新有機殺菌剤の効果試験を行い, 之れ等の新薬剤はボルドー液に比し効果が著しく劣る事を確めた。この試験中薬剤撒布後胞子の形成狀況を調査した結果によると, ボルドー液は胞子の形成を著しく抑制したに拘らず新農薬は輕微であつた。

以上の結果を綜合考察して, 葉稻熱病を用いて農薬の効果を比較する場合, 撒布後数日以内に病斑上の胞子形成狀況を調査すれば, 効果鑑定の實用的の一方法となり得る事を知つた。

(長野農事改良實驗所)